

たまいたま

川柳



巻頭言

言葉の因果とついで

願法みつる

テレビでマジックの披露場面を観た。鮮やかなマジックが、あたかも超能力や魔術のように演じられている。演者がカラクリを説明すると、ナウダということになり、白けてしまうのである。熱い興奮が、醒めるのだ。森羅万象の因果律もまた、同じ事ではないだろうか。先号で、老いぼれ猿が怒らないことにトライしていると述べたが、その姿は怒りの原因への対応の在り様なのだ。憤る興奮から、一歩引いて心静かに見渡せば、自分をも含めた愚かな人間同志の我執の場面が見えてくる。まさにマジックのカラクリ解明に同じなのだ。

所詮、我執からは逃れられないのが人間の業である。その我執を如何に制御できるか正せるかが、人間性だ。仏教でも、正しい言葉が大切であると説かれる。これは、正しい言葉を使えなどと言う単純なことでは無い。因果律からすれば、悪い結果に結びつくような言葉を使うなと言うことだ。悪意のある言葉や陰口・悪口・法螺話・自慢話など、我執の低さが発する悪因を戒めているのだと考えられる。自分は例外と思うことが、我執である。一旦、口から出た悪い言葉はウイルスとなる。結果、混乱や不和を招く。まさに因果である。内外広く政治家先生も、お役人様も陥りやすいご時世である。

この因果律は川柳の世界観だ。俳句のそれではない。

日日是好

願法みつる

大自然声なき声に包まれる

他愛ない同床異夢へ神と人

下町で鎮座まします正一位

身綺麗に生きて騒がぬ象と亀

ギロチンの影がトカゲを脅かす

ガリレオが乗りたがってる宇宙船

もの申すことが歪んで重力波

善と悪立場を換えて悪と善

兆という額を数えるゼロの数

平成28年

4月号 (No.677)

日川協加盟